

第 19 部 ソフトウェア技術者の資格

世の中には、医師や弁護士、公認会計士、弁理士、薬剤師など、国が実施する資格試験に合格しないと従事できない職業がある。バスやタクシーの運転手も、そうである。しかしソフトウェア技術者の場合は、そうではない。特別な資格がなくてもソフトウェアの構築などに参画することは、何ら差し支えない。ソフトウェア技術者の試験は、特定の分野で、あるレベル以上の技術を持っていることを、国家など試験を実施する組織が証明するものである。このような試験を、認定試験と呼んでいる。

つまり、「私はソフトウェア技術者として、一流の実力を持っています」と自称しても、それを他の人や組織に信じてもらうのは容易ではない。どの分野で、どれぐらいのレベルなのかもよく分からない。しかし「私は情報処理技術者試験の『IT ストラテジスト』の試験に、平成 26 年に合格しました」といえば、どの分野でどの程度の実力をしているのかを、容易に人に伝えることができる。したがって、できることなら適切な資格を取得することが望ましい。技術者として自分の技術力を向上させる上で、励みにもなる。

第 19 部では、このソフトウェア技術者の資格について議論する。第 19 部は、第 49 章だけから構成される。

